

愛知県環境審議会自然環境保全部会（2025年度第1回）中間見直し案に対する質問・意見への対応案について

質問・意見			対応案
番号	委員名	発言要旨	
1	福田専門委員	<p>成果指標について、先行して達成しているもの、進捗が芳しくないものなどは当面変更しないということで良いか。</p> <p>⇒成果指標は中間見直しに合わせて更新、追加等を予定しており、関係部局と調整を進めている。次回の部会において調整結果をお示ししたい。（事務局）</p>	<p>関係部局との調整結果を反映した成果指標一覧を追補版（案）12～14 ページに掲載します。</p>
2	香坂専門委員	<p>国家戦略では状態目標及び行動目標という性質の異なる目標を設定しているが、今後はそうした目標の性質に応じて分かりやすい形にできると良い。</p>	<p>国家戦略において状態目標及び行動目標といった性質の異なる目標が設定されていることを十分に念頭に置いた上で、戦略に係る事業の実施、毎年度の進捗管理及び評価を行ってまいります。</p>
3	香坂専門委員	<p>みどりの食料システム戦略などの農林漁業分野や、気候変動適応策などとの相乗効果、或いはトレードオフなども踏まえて検討いただけると良い。</p>	<p>県戦略では、農林水産業や気候変動への対応などを基本方針（3）に位置付け、生物多様性に関する施策を展開しております。</p> <p>農林水産業分野などとの連携を追補版（案）4 ページに記載するとともに、本県の「食と緑の基本計画2030」など、関連施策と一体的な取り組みを進めてまいります。</p>
4	香坂専門委員	<p>自然共生サイトについて、今年度から法制化に伴い対象となった回復、創出タイプは、まだ数が少ないため、全国に先駆けて愛知県としてモデルが出来ていくと良いと思う。</p>	<p>自然共生サイトの拡大に係る事業について、追補版（案）8、10 ページに記載します。</p> <p>来年度事業として、回復タイプの申請支援をモデル事業として実施するとともに、保全活動を行う団体等が活用できる手引きを作成・周知することにより、自然共生サイトへの申請を促進してまいります。</p>

5	富田専門委員	保全活動団体が自然共生サイトの申請を行おうとする際、地権者との関係構築がネックとなり、ハードルが高くなってしまふ事例もある。そうした場面で行政のサポートがあるとスムーズにいくと思うので、そのような視点を今後の戦略に入れていただけると良い。	自然共生サイトの拡大に係る事業について、追補版（案） 8、10 ページに記載します。 県ではこれまで自然共生サイト申請の伴走支援などを行ってきましたが、活動の継続自体に課題を抱える事例も見られることから、来年度は、活動の継続性を高める視点も取り入れた申請の手引きを作成するほか、保全団体と事業者のマッチングなど既存事業も活用しながら、自然共生サイトの拡大を支援していきたいと考えております。
	渡邊部会長	サポート体制があれば自然共生サイトに参画する企業、自治体、団体も出てくると思うので、個別案件というよりも全体の総括的な立ち位置で体制づくりをしていただけると良い。	
6	福田専門委員	ジビエの普及について、イノシシは公的機関の検査で豚熱陰性が確定しないと流通出来ないが、検査数に限りがあるため、流通量がなかなか増えない。このため、ジビエの普及を推進する上では、検査の考え方についても整理が必要。	イノシシのジビエ利用における血液 PCR 検査は、国の交付金等を活用し検査数の増加に努めており、処理加工施設への搬入数も徐々に増加しております。今後は、国の手引きに基づき、本県においても民間検査機関を活用しながら、検査数の増加を図ってまいります。
7	福田専門委員	生態系ネットワーク協議会の機能強化について、参加団体数は増えているが、事務局機能をボランティアでやらざるを得ないという状況にあり、事務局機能の強化に課題がある。	生態系ネットワーク協議会の機能強化について、追補版（案） 8 ページに記載します。 各ネットワーク協議会を支援するプラットフォームの創設により、協議会や構成団体の連携強化、事務局の負担軽減に向けた取組を実施してまいります。
8	福田専門委員	外来生物対策について、すでに広く定着、繁殖してしまっている種への対応をどうしていくか。県として何を一番危険視して取り組んでいくか明確にしておくが良い。	すでに定着、繁殖している種については、市町村や関係機関等と連携した防除活動や情報共有により分布拡大防止に努めており、このことを追補版（案） 7 ページに記載します。 また、生態系等の被害が大きいと考えられるクビアカツヤカミキリやナガエツルノゲイトウなど、7種の特定外来生物の分布拡大防止を新たな目標とすることとし、追補版（案） 7、12 ページに記載します。

9	富田専門委員	<p>進捗管理表（自然環境保全部会（2025年度第1回）資料5）の自然環境保全地域及び生息地等保護区の指定数増の今後の取り組みについて、具体的にどのようにするのか。</p>	<p>自然環境保全地域については、来年度、候補地の一つにおいて指定前調査（指定に向けた詳細な自然環境調査等）を実施する予定です。 生息地等保護区については、引き続き検討してまいります。</p>
10	守安委員	<p>環境学習のフィールドとして、野鳥園の木質化などハード面が改善されていく一方、ソフト面はどうかと心配している。成果指標である「生物多様性」という言葉の意味の認識率も伸び悩んでおり、体験の質、指導者たちの質を高めていくための取組が必要ではないか。</p>	<p>県では、ユースの保全活動体験や、生物多様性を含むSDGsを先導するリーダーの育成とスキルアップに係る研修など、次代を担う人材の育成に取り組んでいます。 また、もりの学舎での環境学習プログラムや指導者向けの研修など、引き続き、自然体験やその指導者の質の向上に取り組んでまいります。</p>